



### 【気象観測・予報警報能力向上のための JICA プロジェクト】

当センターでは、国際協力機構（JICA）のプロジェクトとして2014年6月から2017年5月にかけて「気象観測・予報・警報能力向上プロジェクト(JICA Project for Enhancing Capacity on Weather Observation, Forecasting and Warning: J-POW Project)」を実施してきました。

この間、日本の気象庁に当たる「フィリピン大気・地球物理・天文庁 (Philippine Atmospheric, Geophysical and Astronomical Services Administration: PAGASA)」に多くの専門家を派遣し、PAGASA 職員と緊密に連携して現地の要望を取り入れつつ、技術支援を行ってきました。具体的には、気象レーダー等の観測システムの運用技術、観測データの品質管理やトレーサビリティ、予報・警報技術、学校教育等も含めて普及啓発等、多くの分野にかかわる気象業務の能力向上に向けて取り組みました。また、PAGASA 職員を日本にお招きし、気象庁の協力も頂きつつ集中的な研修も行っています。これらにより、例えば、観測データの品質向上や気温等の予報への客観的な技術の現業的な導入などの成果をあげてきました。



フィリピン大気・地球物理・天文庁(PAGASA)本部ビル。  
植え込みに PAGASA とある。

### J-POW プロジェクト調整会議

プロジェクトの締めくくりとして、2017年4月21日に、PAGASA と JICA 共同による第7回 J-POW プロジェクト調整会議が開催されました。プロジェクトの日本側実施担当である当センターとともに、JICA 本部・フィリピン事務所、フィリピン側では PAGASA のほか親官庁である科学技術省、市民防衛局、海上保安庁等の関係機関が出席し、プロジェクトの成果を両国で確認し、最後に PAGASA 長官への成果伝達式が行われました。



第7回 J-POW プロジェクト調整会議の風景。  
成果の発表を行う PAGASA 担当職員と、それを見守る日本側プロジェクト担当者(左)とフィリピンの防災関係機関の出席者(右)。



### J-POW プロジェクトの成果伝達式。

ガッチリと握手し成果を確認するセンター三上国際業務課長(サブ・プロジェクトマネージャー)と PAGASA マラノ(Malano)長官。左から、JICA 赤津アドバイザー、センター登内振興部長(プロジェクトマネージャー)、二人において、PAGASA カナヤン(Canayan)予報部長、PAGASA ダリダ(Dalida)次長、JICA フィリピン事務所大島次長、そして JICA 佐藤長期派遣専門家。

(次号につづく)

(理事長)